

本  
フォレスト

## 熊本工場を一新、木くず受入増

### 新選別機採用で品質高める

日本フォレスト(大分県日田市、森山和浩社長、☎0973・26・0750)は、木くずをリサイクルする熊本工場(熊本県宇城市)の設備を一新し、処理能力を日量3・7トナから148・29トナに増強した。昨年10月

に変更許可を受けすでに本格稼働しており、県中央から南部を中心建設・解体工事で出る廃木材や、熊本地震によつて発生した木くず等を積極的に受け入れている。三普エンジニアリング(広島県呉市)が開発した新選別機を組み込んだ新型

機械の実用機を国内で初めて採用。異物除去能力を高め、高品質なチップを製造する。



導入したSWS型木材チップ複合選別機



高品質なチップを製造

とによってチップ収集率を向上している。破碎機は、ハンマー式の「HMP-1600型」を採用。1日当たり8時間稼働で148・29トナの破砕能力を持つ。磁選機は、破砕後と選別後に計2台

品チップはヤードに運ばれ、オーバーサイズは再度、破碎にかける。また、除去した混入異物をY型風力選別装置で再び選別し、一部混じった木材チップをサイクロンで返送することによってチップ収集率を向上している。

同社担当者は、「熊本工場は稼働開始から4年目を迎える。今回の設備変更で、受け入れ量を大幅に増やすことができたため、可能な限り震災廃棄物を受け入れ復興に寄与していく」と話した。

う。2段の吹き出し工トや混入異物(石・金属・ガラス等)を除去。アーノズルで、対象の属・ガラス等)を除去。5以下に碎かれた製

工程のふりい分けと別工程のふりい分けと比重差を利用し、ダス

設けており、製品チップの高品質化につなげる。チップは、製紙原